

2011.4.19

文具をお送りいただいたみなさま

お父さんたちのネットワーク世話人
石垣政裕

支援物資のご報告No.2

昨日は4月も半ばを過ぎたというのに冷たいみぞれが降り、少し高いところでは雪に変わりました。東北のわたしたちは、こんなみぞれの日には宮澤賢治の詩をいくつも思い出します。こんなとき賢治が花巻にいたら、やはり歩いてでも沿岸部へ出かけたでしょう。

みなさまから温かい支援を受け、再び10個ほどの段ボールに入った文具を載せ、再び2週連続で水沢まで車を飛ばしました。下り線には行きも帰りも警察のワゴン車が列をなしています。どこかで集中検索してきたのでしょうか。ハンドルを握っていなければ手を合わせたいところです。

文具支援を呼びかけた鈴木義則さんと待ち合わせした水沢市街の道の駅でお会いしました。道の駅に「アテルイ」の名が使われているとおり、この辺りは古代、蝦夷側の根拠地であり、中世にかけて中央の政府と東北の豪族が対峙した地域なのです。伊達政宗に仕えながら、大規模な治水工事をおこなったキリシタン後藤寿庵を知る人もいるでしょう。幕末の蘭学者高野長英を描いた前進座の舞台「水沢の一夜」。演題名を覚えているので、わたしは昔見たかも知れません。

ついつい鈴木さんのお宅で長居をしてしまいました。でもお話を伺いよかったと思います。水沢南小学校のおやじの会は、昨年10月にできたばかりだということで、先週お会いした阿部さんもすぐ近くに住んでいらっしゃる。みな顔なじみが学校の掃除などをし、そのあとの懇親会を楽しんでいたとのことでした。そこから今回の文具を集めるに到る経過を鈴木さんの文章を借りて紹介します。



鈴木さんの自宅の前で

昨日は遠いところお越しいただき、たくさんのお物資本当にありがとうございました。今日

は21日に控えるPTA総会資料作りに学校へ行って参りました。先日お伝えした通り当校では今日から21日まで支援物資の収集を行います。

今朝、正面昇降口に備えた段ボール箱を確認したら既にたくさんの学用品が入っていました。とてもうれしいことです。そして明日は大船渡の数校へ物資を届けに参ります。

鋭意、支援をしていますがお二人を見送った後フツと私自身が支えられていることに気づきました。お分かりの通り私は妻、社員数名と旅行会社を経営しております。前職から数えると25年になりました。この震災で春休み旅行を中心にそれまで受注した旅行はすべて取消になりました。先の見えない閉塞感…誰にも言いませんでしたが会社閉鎖を考えました。そんな時、奥州市在住陸前高田出身の友人から母と姉を震災で亡くしたと連絡がありました。ガソリン不足の最中、毎日高田へ行っては避難所と安置所を訪ね歩き…。彼は一体どんな気持ちだったでしょう。過日二人とも安置所で見つかりました。彼は泣きながら私に「オレは幸せだよ、遺体が見つからない人いっぱいいるも。」肉親が二人も津波にのまれ、それを幸せと言えるのか、幸せとは何なのか…。慰める言葉すら見つかりませんでした。

あの日からしばらく時間が止まったままだった気がします。呆然と映像を見、いつのまにか涙を流し、行き場のない怒りを覚え最初はその友人の沿岸で避難生活を続ける地域人々の為に地元同級生らに呼びかけ生活物資を集め彼に直接避難所へ届けてもらいました。喜んでくれました、どなたか分からないけれど心から感謝しますとことづけを聞きました。決めました。支援する、できる限りの。どうせしばらく旅行なんてない…生業が立ち行かず思い悩んでいた私に活力と勇気をくれたのは紛れもなく石垣ご夫妻をはじめとする支援して下さる皆様と見ず知らずの被災した方々です。今は自分を省みず人の為に生きようと思います。……

鈴木さんは先々週は気仙沼浦島小へも学用品を届けて下さったとのことでした。わたしたちの宮城県です。鈴木さんの話を聞きながら、本当は支援されているのは私たちなのだと思われさせられました。おやじがんばれ。おやじがんばる。

学用品・文具を提供して下さったみなさまにほんとうに感謝いたします。